



特集 学びが変わる GIGA スクール構想 垂水市 GIGA スクール構想について



変わる教育

子どもたちの学びの形が大きく変わるつとじています。「GIGAスクール構想」という言葉を、最近少しずつ耳にすることが増えてきましたが、まだまだ知らない方が多いかと思えます。簡単に表現すると、「インターネットを上手く活用して、子どもたちの能力を最大限引き出す」というものです。

今月号では、GIGAスクールの構想とは、どういうものなのか、また、垂水市が行うGIGAスクール構想の特徴を知っていただくとともに、新しい学びの形がもたらすメリットや可能性、子どもたちや保護者・教職員の思いを紹介します。

一人一台端末(タブレット等)は、令和の学びのスタンダードと言われています。実際に学ぶ子どもたちに加え、大人の皆さんにも、新しい学びの形について、興味を持っていただければと思います。

新たな学びの創造

これまでも、ICTの利活用は進められてきましたが、子どもたちがいつでも使えるパソコンはなく、限定的だったと言わざるを得ません。

これからは、子どもたちがタブレット端末を「文房具」のように毎日当たり前活用できる環境が整いました。これにより子どもたちが主役の「主体的・対話的で深い学び」へとダイナミックな授業が展開され、これまでの授業の在り方が、大きく変わるものと思えます。

ただ、忘れてはならないのは、教育の原点。未来を生きる子どもたちの「知・徳・体」をバランスよく伸ばすことです。ICT機器を使うことが「目的」ではなく、あくまでも、子どもたちに力を付ける「手段」として活用を進め、先生方が、子どもたちと一緒に、新しい学びの形を「創造」して行ってほしいと考えています。これから始まる「教育DX(デジタルトランスフォーメーション)」と言われる大変革に期待してください。

個別最適化された学習を実現 AIドリルの導入と活用

最新のAI技術を活用し、自動的に子どもたち一人一人に最適な問題や動画解説等の提供が可能となります。今後、学校の授業だけでなく、補充学習や家庭学習でも積極的に活用し、一人一人の学力向上につなげていきたいと考えています。

生活面でも積極的な活用を

子どもたちが、心境を天気で表したりすることで、気持ちの変化等を確認できるシステム「スクールライフノート」を導入します。教師が、リアルタイムで子どもたちの心情を把握し、不安や悩みに気付き、早期に対応するような活用も図れます。

学校の「壁」を越えた交流

小規模校の多い垂水市では、インターネット等を活用した遠隔授業等で、学校の「壁」を取り払い、一緒に授業をするなど、これまでにない取組も期待できます。今後は、市外や海外の学校とも交流するなど、活用の幅も広がってまいります。

垂水らしい 「GIGAスクール構想」

持ち帰り可能な整備により 校外や家庭学習での活用

家に持ち帰ってタブレット端末を活用することは、これまでの学校のネットワーク体制では不可能でしたが、クラウドサービスを活用するために、高速・大容量のネットワークの整備・活用により、学校のネットワーク体制強化を行いました。

また、インターネット環境のない家庭には、必要に応じて市からモバイルWi-Fiルーターを貸し出し、上学年優先で家庭学習利用も可能な環境としました。家庭学習可能な整備により、万が一、臨時休業となっても、オンライン学習等が実現できる環境が整いました。

「GIGAスクール構想」 が目指すもの

垂水市では、国の方針に従い、令和2年度、急ピッチで機器の導入や高速・大容量ネットワークの整備など、新しい時代にふさわしいICT環境を整備してきました。令和2年度末には、一人一台タブレット端末の整備も完了し、令和3年度からは、各学校で本格的な利活用が始まります。本市といたしましても、今回の全国一斉のICT環境整備を大きなチャンスと捉え、Society 5.0時代を見据え、子どもたちが、これからの変化の激しい予測困難な社会を生き抜くために必要な資質・能力を身に付けられるようにしていきます。

垂水らしい 「GIGAスクール構想」 による新たな学びの 創造を目指して



垂水市教育委員会
教育長 坂元 裕人